

令和6年度

# 消防学校教育訓練計画

石川県消防学校

# 目 次

		ページ
第1	令和6年度教育訓練の方針	1
第2	令和6年度教育訓練の実施要領	1
第3	令和6年度教育訓練の内容	2
第4	令和6年度消防学校教育訓練の実施期間	4
第5	令和6年度消防学校教育者数・受付期間等	5
第6	令和6年度消防学校教育訓練入校期間中の必要経費	6
第7	入校手続等	8
	別記様式第1号（入校願書）	9
	別記様式第2号（履歴書）	10
	別記様式第3号（推薦書）	12
	様式4（研究討議資料）	13
	様式5（自家用車乗入れ申請書）	14
第8	携行品及び事前提出物	15
第9	令和6年度消防学校教育訓練科目及び時間数	
1	消防職員に対する教育訓練	
(1)	初任教育	16
(2)	専科教育	
ア	特殊災害科	18
イ	予防査察科	18
ウ	危険物科	19
エ	救助科	20
オ	救急科	21
(3)	幹部教育 中級幹部科	22
(4)	特別教育	
ア	無線通信科	22
イ	救急救命士生涯教育講習	23
ウ	兼任救急隊員教育講習	23
エ	通信指令員技術向上講習	24
オ	指導救命士養成講習	24
カ	ヘリコプター搭乗職員講習	25
キ	消防大学校ゼミ	25
ク	災害事例等講習	25
2	消防団員に対する教育訓練	
(1)	専科教育 警防科	25
(2)	幹部教育 初級幹部科	
ア	初級幹部科	25
イ	指揮幹部科現場指揮課程	26
(3)	特別教育	
ア	ドローン操作訓練	26
イ	女性消防団員専門知識向上セミナー	26
3	一般県民に対する教育訓練	
	一日入校・県政学習バス	26
(参考)		
1	令和5年度消防学校教育訓練実績	27
2	消防学校の施設等の概況	28

# 令和6年度 消防学校教育訓練計画

## 第1 令和6年度教育訓練の方針

近年、消防を取り巻く社会環境は大きく変化しており、警防・予防業務の多様化・複雑化、救急業務の増大・高度化、大規模な災害への迅速な対応など、消防の果たす役割は益々拡大している。

近年の集中豪雨や台風、地震等の自然災害は、過去に経験したことのないような激甚化・頻発化・大規模化の傾向にあり、元日には能登地方で最大震度7を観測した大地震が発生し、未曾有の大災害となった。また、昨年7月12日から13日にかけての大雨では、線状降水帯が発生し、県内で初めて顕著な大雨に関する気象情報が発表され、津幡町とかほく市において1時間雨量が観測史上最大となるなど、河北郡市を中心に記録的な大雨となった。

このように、いつ発生するか分からない災害や事故に対し、地域住民の防災や安全に対する関心がより一層高まっており、地域住民の生命・財産を守る消防の果たす役割は一層増大している。

令和6年度の消防学校の教育訓練は、こうした社会情勢の変化、地域住民の消防に対する期待と信頼感の高まりに応えるため、消防職員及び消防団員のより一層の資質向上を図ることを目標に、次のことを基本方針として行う。

- 1 消防の理念と責務を正しく認識させる。
- 2 消防活動に必要な規律、節度を習得させる。
- 3 人格を磨き強靱な体力と気力の錬成を図り、積極果敢な行動力を育成する。
- 4 社会の変化に即応できる高度な知識、技術を修得させる。
- 5 消防精神の涵養を図り、誇りと使命感を醸成するとともに、チームワークの重要性を自覚し、コミュニケーションを図れる消防人を育成する。

## 第2 令和6年度教育訓練の実施要領

- 1 実施する教育訓練の種類、対象者及び教育期間は、「第3 令和6年度教育訓練の内容」及び「第4 令和6年度消防学校教育訓練の実施期間」のとおりとする。
- 2 各課程の教育期間、教育人数及び入校願書受付期間等は、「第5 令和6年度消防学校教育人数・受付期間等」のとおりとする。
- 3 入校期間中の必要経費は、「第6 令和6年度消防学校教育訓練入校期間中の必要経費」のとおりとする。
- 4 各課程の教科目等については、「第9 令和6年度消防学校教育訓練科目及び時間数」のとおりとする。
- 5 教育訓練は、原則として全寮制で実施する。

第3 令和6年度教育訓練の内容

教育訓練種類	対象者	到達目標	教育時間
初任教育	新規採用者及び未教育者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 服務義務を理解し、職務意欲が旺盛で、住民の信頼を得られること。確保</li> <li>2 し、警防隊員として、基本的な安全管理について理解し、自らの安全を確保</li> <li>3 し、災害現場全般にわたって概要を理解していること。</li> <li>4 消防任務から一般的な質問に回答できること。</li> </ol>	803
	特殊災害科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全、適切かつ効果的な消防活動に必要な特殊物資に関する専門的知識</li> <li>2 を豊富に有していること。</li> <li>3 特殊かつ異様な災害への対応を含め、災害の態様に応じた的確な消防活</li> <li>4 動要領を理解していること。</li> <li>5 戦災被害現場において、隊員の安全管理を優先して、適切かつ効果的な消防</li> <li>6 戦術を指揮できること。</li> </ol>	49
専科	予防査察関係業務の担当者及び担当予定者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 予防査察行政の現状及び課題を理解し、与えられた権限を正しく執行で</li> <li>2 きること。</li> <li>3 予防管理、建築規制、危険物規制及び消防用設備等に係る専門的知識を</li> <li>4 豊富に有していること。</li> </ol>	70
	危険物科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 危険物行政の現状及び課題を理解し、与えられた権限を正しく執行でき</li> <li>2 ること。</li> <li>3 危険物化学、指定可燃物及び液化石油ガス等に関して、災害対策上必要</li> <li>4 な危険物の特性等に係る専門的知識を豊富に有していること。</li> <li>5 危険物の規制等に対して許認可等の確切的に行い、違反を適切に処理で</li> <li>6 きること。</li> </ol>	35
救助科	救助隊員予定者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 厳しい条件下において、救助活動を遂行し得る旺盛な士気及び強健な</li> <li>2 身体を有していること。</li> <li>3 救急活動に係る最新の専門的知識を豊富に有しており、専門的で高度な</li> <li>4 救急活動技術や技能を備え、これらを活用した応用力を十分に発揮できること。</li> <li>5 救急活動及び救助訓練において、自らの安全を確保できること。</li> </ol>	140
	救急科	救急隊員予定者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 救急業務及び救急医学に関する基本的な知識を有していること。</li> <li>2 応急処置に必要な解剖生理学及び各科の疾病状況に関する専門的知識を有</li> <li>3 していること。</li> <li>4 応急処置時における的確な観察及び判断能力を備えていること。</li> <li>5 応急処置に必要な専門的技術や技能を十分に発揮できること。</li> <li>6 救急用器具及び材料の取扱いに精通していること。</li> </ol>
幹部教育	消防司令及び組織（人事及び業務）の管理を職務とする消防司令補	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中級幹部としての責任及び社会一般の立場を正しく認識していること。</li> <li>2 中級幹部としての消防及び社会一般の動向を理解していること。</li> <li>3 迅速かつ的確な意思決定に基づき、上司を補佐し、部下を指揮監督す</li> <li>4 ること。</li> <li>5 事故現場及び下命現場において、迅速かつ的確な初動対応ができること。</li> <li>6 災害現場及び下命現場において、迅速かつ的確な初動対応ができること。</li> <li>7 災害現場及び下命現場において、迅速かつ的確な初動対応ができること。</li> <li>8 災害現場及び下命現場において、迅速かつ的確な初動対応ができること。</li> <li>9 災害現場及び下命現場において、迅速かつ的確な初動対応ができること。</li> <li>10 災害現場及び下命現場において、迅速かつ的確な初動対応ができること。</li> </ol>	49

注：初任教育第803時間には、各消防本部（局）が行う実務研修（35H）を含む。

教育訓練種類		対象者	到達日	目標	教育時間
消防	無線通信科	無線業務担当予定者	第二級陸上特殊無線技士の資格を取得すること。		12
	救急救命士生涯教育講習	救急救命士	救急救命処置に係る気管挿管、薬剤投与等に関する医学的知識、技術を再確認すること。	救急救命処置に係る気管挿管、薬剤投与等に関する医学的知識、技術を再確認すること。	35
防	兼任救急隊員教育講習	兼任救急隊員	救急救命士が行う応急救置に関し、救急隊員としての補助業務に必要な知識と技術を修得すること。	救急救命士が行う応急救置に関し、救急隊員としての補助業務に必要な知識と技術を修得すること。	21
	通信指令員技術向上講習	通信指令業務従事者で実務経験1年未満の職員	救急業務における通信指令に必要な知識と技術を修得すること。	救急業務における通信指令に必要な知識と技術を修得すること。	14
職	指導救命士養成講習	医学的知識（5年以上の実務経験）等を有する経験豊富な救急救命士	救急救命士や救急隊員、通信指令員など救急業務に携わる職員に対する指導方法を習得すること。	救急救命士や救急隊員、通信指令員など救急業務に携わる職員に対する指導方法を習得すること。	105
	ハリアクター搭乗職員講習	消防防災ハリアクター隊員予定者	消防防災ハリアクターの隊員として活動するための知識及び技術を修得すること。	消防防災ハリアクターの隊員として活動するための知識及び技術を修得すること。	95
員	消防大学校ゼミ	消防職員	消防大学校で教授している最新の知識及び技術を修得すること。	消防大学校で教授している最新の知識及び技術を修得すること。	3
	災害事例等講習	消防職員	県内をはじめ全国で発生した最近の大規模災害等に対処する知識等を修得すること。	県内をはじめ全国で発生した最近の大規模災害等に対処する知識等を修得すること。	4
消防	警防科	消防団員として、概ね3年以上の経験を有する者	1 火災防ぎよ活動に関する専門的知識及び行動原則並びに各種災害事象における消防団の役割及び活動内容を理解していること。 2 災害現場において、中核的な活動を遂行できること。	1 火災防ぎよ活動に関する専門的知識及び行動原則並びに各種災害事象における消防団の役割及び活動内容を理解していること。 2 災害現場において、中核的な活動を遂行できること。	14
	初級幹部科	班長の階級にある者	1 消防団初級幹部としての職責を自覚し、消防団の運営に必要な規律、災害活動要領及び安全管理を深く理解していること。 2 地域住民に対して防災指導を行えること。	1 消防団初級幹部としての職責を自覚し、消防団の運営に必要な規律、災害活動要領及び安全管理を深く理解していること。 2 地域住民に対して防災指導を行えること。	14
消防	指揮幹部科現場指揮課程	部長又は部長と同等の実務経験を有する班長	1 災害時における現場指揮者としての職責を自覚し、現場指揮及び安全管理の知識及び技術を有していること。 2 大規模災害時において、現場指揮者として、火災防ぎよ、水災活動、救助救命、避難誘導及び情報収集・伝達に係る的確な現場指揮及び安全管理の知識及び技術を有すること並びに自主防災組織等に対して防災指導を行えること。	1 災害時における現場指揮者としての職責を自覚し、現場指揮及び安全管理の知識及び技術を有していること。 2 大規模災害時において、現場指揮者として、火災防ぎよ、水災活動、救助救命、避難誘導及び情報収集・伝達に係る的確な現場指揮及び安全管理の知識及び技術を有すること並びに自主防災組織等に対して防災指導を行えること。	14
	ドローン操作訓練	消防団長が推薦する者	ドローンの基礎知識、基本操縦を修得すること。	ドローンの基礎知識、基本操縦を修得すること。	13
一般	女性消防団専門知識向上	女性消防団員	最近の火災予防などの専門的な知識及び救急救命などの技能を修得すること。	最近の火災予防などの専門的な知識及び救急救命などの技能を修得すること。	5
	県民教育等	女性県政学習バス、子ども消防学校、自主防災組織等	消防・防災に関する基礎的知識を修得すること。	消防・防災に関する基礎的知識を修得すること。	

第4 令和6年度消防学校教育訓練の実施期間

教育訓練種類		期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	摘要
消防職員	初任教育	74	9日(火)					23日(水)							実日数 115日 (803H) 入校式 4/10、修了式 9/25予定
	専科教育	8							2日~16日(水)		2日~10日(月)				実日数 7日 (49H)
	予防査察科	10													実日数 10日 (70H)
	危険物科	26								25日~29日(月)					実日数 5日 (35H)
	救助科	25							22日(水)	19日(水)					実日数 20日 (140H)
	救急科	30											21日(水)	13日(水)	実日数 37日 (259H) (病院実習(7H)含む)
	中級幹部科	21										7日~16日(水)			実日数 7日 (49H)
	無線通信科	47			20日・21日(水)										実日数 2日 (12H)
	救急救命士生涯教育講習	38										12日~18日(水)			実日数 5日 (35H)
	兼任救急隊員教育講習	8										18日~20日(水)			実日数 3日 (21H)
	通信指令員技術向上講習	7		15日・16日(水)											実日数 2日 (14H)
	指導救命士養成講習	3							30日~21日(月)						実日数 15日 (105H)
	消防大学校ゼミ	29												25日(水)	実日数 14日 (95H)
災害事例等講習	22												21日(金)	実日数 1日 (5H)	
消防団員	16												7日(金)	実日数 1日 (4H)	
警防科	36								5日・6日(土)					実日数 2日 (14H)	
初級幹部科	11								19日・20日(土)					実日数 2日 (14H)	
指揮幹部科理場指揮課程	9									2日・3日(土)				実日数 2日 (14H)	
ドローン操作訓練	7			11日・12日(土)										実日数 2日 (13H)	
女性消防団員専門知識向上セミナー	13			26日(日)										実日数 2日 (13H)	
一般	県民教育等		随時											実日数 1日 (5H)	女性県政学習バス・子ども消防学校・自主防災組織の研修等

注：初任教育の803Hには、各消防本部(局)が行う実務研修(35H)を含む。

第5 令和6年度消防学校教育者数・受付期間等

教育訓練種類	教育期間	教育者数	入校願書受付期間	入校日時	摘要
初級教育	第74期	55名	6年2月13日(火)～2月27日(火)	6年4月9日7時30分～8時30分	R5 61名
消防職員	専科教育	23名	6年10月21日(月)～11月1日(金)	6年12月2日7時30分～8時30分	R4 21名
	予防査察科	12名	6年8月19日(月)～8月30日(金)	6年10月2日7時30分～8時30分	R3 20名
	危険物科	26名	6年10月11日(金)～10月25日(金)	6年11月25日7時30分～8時30分	R4 24名
	救助科	25名	6年9月6日(金)～9月20日(金)	6年10月22日7時30分～8時30分	R4 21名
	救急科	54名	6年12月9日(月)～12月20日(金)	7年1月21日7時30分～8時30分	R5 47名
	中級幹部科	23名	6年11月25日(月)～12月6日(金)	7年1月7日7時30分～8時30分	R4 21名
	無線通信科	55名	6年5月2日(木)～5月17日(金)	6年6月20日7時30分～8時30分	R5 59名
	救急救命士生涯教育講習	27名	6年10月28日(月)～11月8日(金)	6年12月12日7時30分～8時30分	R5 23名
	兼任救急隊員教育講習	14名	6年11月1日(金)～11月15日(金)	6年12月18日7時30分～8時30分	R5 14名
	通信指令員技術向上講習	19名	6年4月1日(月)～4月12日(金)	6年5月15日7時30分～8時30分	R5 15名
消防団員	指導救命士養成講習	24名	6年8月19日(月)～8月30日(金)	6年9月30日7時30分～8時30分	R元 20名
	ハコブタ-階乗員講習	2名	別 途 通 知		R5 3名
	消防大学校ゼミ	100名	別 途 通 知		R5 60名
	災害事例等講習	100名	別 途 通 知		R4 100名
	警防科	30名	別 途 通 知		R5 29名
	初級幹部科	30名	別 途 通 知		R4 16名
	指揮幹部科現場指揮課程	30名	別 途 通 知		R4 19名
	トロー操作訓練	20名	別 途 通 知		R5 21名
	女性消防団員専門知識向上ゼミナール	30名	別 途 通 知		R5 14名
	県民教育等	随 時			

第6 令和6年度消防学校教育訓練入校期間中の必要経費

(単位：円)

教育訓練種類	教育実日数	教材費	施設研修費	寮費	合計	摘要
専科教育	74期	94,490	47,040	216,200	357,730	
特別教育	特殊災害科	10,000	4,600	13,430	28,030	
	予防査察科	14,050	1,930	18,950	34,930	
	危険物科	5,820	2,900	10,220	18,940	
	救助科	31,040	4,290	39,410	74,740	
	救急科	23,460	-	70,130	93,590	ほかに病院実習1日
幹部教育	中級幹部科	7,490	-	13,430	20,920	
特別教育	無線通信科	18,530	-	1,600	20,130	通学
	救急救命士生涯教育講習	5,000	-	4,000	9,000	通学
	兼任救急隊員教育講習	600	-	2,400	3,000	通学
	通信指令員技術向上講習	400	-	1,600	2,000	通学
	指導救命士養成講習	78,350	-	29,150	107,500	
	ハコブタ一搭乗職員研修	-	-	-	-	通学
専科教育	消防大学校ゼミ	-	-	-	-	
	災害事例等講習	-	-	-	-	
幹部教育	警防科	不要	-	-	-	通学
幹部教育	初級幹部科	不要	-	-	-	通学
特別教育	指揮幹部科現場指揮課程	不要	-	-	-	通学
	ドローン操作訓練	不要	-	-	-	
	女性消防団員専門知識向上セミナー	不要	-	-	-	
一般	県民教育等	不要	-	-	-	

(注) 1 教材費は、教科書代とその他教育資料作成費等の合計額です。  
 2 教育訓練は、原則として全寮制です。(ただし、無線通信科(初任教育訓練生を除く)、救急救命士生涯教育講習、兼任救急隊員教育講習、通信指令員技術向上講習、ハコブタ一搭乗職員研修及び消防団員教育は、通学制とします)

3 教育訓練計画の変更、その他特別の事情がある場合は、入校経費を増減することがあります。

(参考) 入校期間中の必要経費(食費明示版)

(単位：円)

教育訓練種類		教育実日数	食費	教材費	施設研修費	寮厚生費	合計	摘要
消防職員	初任教育 第74期	115	206,600	94,490	47,040	9,600	357,730	
	専科教育 特殊災害科	7	12,850	10,000	4,600	580	28,030	
	予防査察科	10	18,150	14,050	1,930	800	34,930	
	危険物科	5	9,800	5,820	2,900	420	18,940	
	救助科	20	37,750	31,040	4,290	1,660	74,740	
	救急科	36	67,150	28,460	-	2,980	93,590	ほかに病院実習1日
	幹部教育 中級幹部科	7	12,850	7,490	-	580	20,920	
	無線通信科	2	1,600	18,530	-	-	20,130	通学
	特別教育 救急救命士生涯教育講習	5	4,000	5,000	-	-	9,000	通学
	兼任救急隊員教育講習	3	2,400	600	-	-	3,000	通学
	通信指令員技術向上講習	2	1,600	400	-	-	2,000	通学
	指導救命士養成講習	15	27,950	78,350	-	1,200	107,500	
	ハリアクター搭乗職員研修	14	-	-	-	-	-	
消防団員	消防大学校ゼミ	1	-	-	-	-	-	
	災害事例等講習	1	-	-	-	-	-	
	専科教育 警防科	2	不要	-	-	-	-	通学
	幹部教育 初級幹部科	2	不要	-	-	-	-	通学
	指揮幹部科現場指揮課程	2	不要	-	-	-	-	通学
特別教育	ドローン操作訓練	1	不要	-	-	-	-	
	女性消防団員専門知識向上 セミナー	1	不要	-	-	-	-	
一般	県民教育等		不要	-	-	-	-	

食費：朝食600円、昼食800円、夕食850円 計2,250円

## 第7 入校手続等

- 1 「入校願書」(別記様式第1号)、「履歴書」(別記様式第2号)、所属長の「推薦書」(別記様式第3号)及び第8の「携行品及び事前提出物」に掲げる事前提出物(研究討議資料については様式4)を、第5の入校願書受付期間に消防学校へ提出すること。  
なお、初任教育の「履歴書」(別記様式第3号)は、初任教育用の様式を使用し、既取得免許・資格及び病歴等について詳細に記入すること。
- 2 研究討議については、次の2つの方式で行うものとし、いずれの方式で行うかは教育訓練毎に別途指示する。
  - (1) 消防学校が設定した課題について入校者から回答を求める方式  
消防学校は、入校願書受付期間終了後、速やかに課題及び要旨を記載した研究討議資料(様式4)を本部(局)へ電子データで送る。  
入校者は、課題に対する回答を記載した研究討議資料(様式4)を入校時に持参する。
  - (2) 本部(局)が提案した課題について他の本部(局)から回答を求める方式  
本部(局)は、課題及び要旨を記載した研究討議資料(様式4)を、入校願書受付期間内に電子データにより消防学校へ提出する。なお、提出数は、各本部(局)1件とする。  
消防学校は、当該資料を関係本部(局)へ電子データで送る。  
入校者は、課題に対する回答を記載した研究討議資料(様式4)を入校時に持参する。
- 3 初任教育入校者が登下校に自家用車を使用する場合は、「自家用車乗入れ申請書」(様式5)を入校願書と併せて提出すること。

別記様式第1号（第5条関係）

# 入 校 願 書

令和 年 月 日

石川県消防学校長 様

現 住 所  
所 属  
階級、氏名

貴学校 ○○○○科へ入校したいので関係書類を添えてお願いします。



履 歴 書

現住所  
氏名

生年月日 昭・平 年 月 日

年 月 日	履 歴
(免許・資格)	
取得年月日	免 許 ・ 資 格 の 種 別 等
(健康状況)	
発病・治療時期	病 歴 等

- 注 1 履歴欄は、最終学歴（学部、学科まで記入）から年月順に記載すること。  
 2 消防履歴は、任免等を記載すること。  
 3 免許・資格等（自動車、救急救命士、危険物取扱者、消防設備士、無線技士等）を有する場合は、その免許等の種別等について記載すること。  
 4 病歴等は、体力錬成時等に注意する事項となるため、詳しく記載すること。

推 薦 書

氏 名

〇〇〇〇科教育訓練受講生として上記の者を推薦いたします。

令和 年 月 日

所属長

氏 名



令和 年 月 日

石川県消防学校長 様

所 属  
氏 名

自家用車乗入れ申請書

消防学校初任教育訓練の入校にあたり、自家用車の乗入れについて下記のとおり申請します。

なお、運転にあたっては、飲酒運転をしないなど、交通法規を遵守します。

記

- 1 車種車名
- 2 車両番号
- 3 便乗学生
- 4 その他

上記の申請について同意します。

令和 年 月 日

所属長

第8 携行品及び事前提出物

○携行品、 ◎事前提出物

携行品	研究討議資料	消防関係法規集	制服・制帽・黒短靴・白手袋	消防手帳・共済組合員証	活動服・アポロ帽・黒短靴	救急服・救急帽・黒短靴・聴診器	防火衣一式	保安帽・編上靴・革手袋・ゴーグル	ケブラー手袋	シットハーネス	カラピナ・小綱	ゴム長靴・軍手・雨具	水着・タオル・ビーチサンダル	寝具一式・トレイニングウェア	洗面用具・湯のみ・はし・座布団	筆記用具	健康診断書	写真	住民票	認印
教育訓練種類																				
初任教育			○	○		○	○				○	○		○	○	○	◎			○
特殊災害科		○	○	○		○	○				○	○		○	○	○				○
予防査察科	※	○	○	○										○	○	○				○
危険物科	※	○	○	○										○	○	○				○
救助科		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○
救急科			○	○				○						○	○	○				○
中級幹部科	※	○	○	○		○	○			○				○	○	○				○
無線通信科															○		◎	◎		○
救急救命士生涯教育講習						○									○					○
兼任救急隊員教育講習				○											○					○
通信指令員技術向上講習				○											○					○
指導救命士養成講習			○			○								○	○					○
消防大学校ゼミ															○					
災害事例等講習															○					

- 初任教育
- 1 盛夏服は、5月末までに準備すること。
  - 2 健康診断書1通（採用時に提出した診断書のコピー）
  - 3 野外活動用水筒
  - 4 消防関係法規集は、入校後別途購入する。

- 無線通信科
- 1 住民票は6か月以内のもの。
  - 2 写真3枚（撮影3か月以内、縦3cm×横2.4cm、正面上半身の無帽、無背景、枠無しで裏面に所属・氏名を記入。[以上の内容を厳守すること]）
  - 3 初任教育前期については、学校で写真を用意するので、各所属からの提出は不要。

ヘリコプター搭乗職員講習については、別途通知する。

※印の教育訓練については研究討議を行い、方式については別途指示する。

上記以外で別途必要となるものがある場合は事前に連絡する。

## 第9 令和6年度消防学校教育訓練科目及び時間数

### 1 消防職員に対する教育訓練

#### (1) 初任教育(第74期)

第74期 令和6年 4月9日～ 9月25日 (115日間)

種 目	教 科 目	実 施 項 目	計 画 時間数	基 準 時間数	
基礎教育 (51H)	倫 理	消防倫理	3	5	
	法学基礎	法制通論、憲法、民法、行政法	6	20	
	消防法		12		
	消防組織制度	地方自治法、消防組織法	6	9	
	サービスと勤務	地方公務員法		6	28
		消防職員委員会		2	
		広報・接遇		2	
		交通事故防止		3	
		人権問題、メンタルヘルス		2	
	理化学	化学		4	10
		物理		4	
その他			1		
実務教育 (226H)	予防広報	防火・防災管理、消防広報	18	20	
	危険物		8	8	
	消防用設備		12	12	
	査 察		27	27	
	建 築		10	10	
	安全管理		16	16	
	特殊災害と保安	高圧ガス保安		2	10
		液化石油ガス保安		2	
		火薬類保安		2	
		その他		1	
	火災防ぎよ		30	30	
	火災調査		15	15	
	防 災 (災害対策)	災害対策基本法、石油コンビナート等災害対策		2	23
防災計画、津波・風水害・震災対策			2		
災害救助法、自主防災活動等			2		

(次ページに続く)

種 目	教 科 目	実 施 項 目	計 画 時 間 数	基 準 時 間 数
	防 災 (災害対策)	原子力災害対策	1	
		緊急消防援助隊	1	
		気象と災害	5	
		水災防ぎよ	8	
		その他	2	
	救 急	救急概論・救急実技	25	50
		応急手当指導員講習Ⅱ	25	
	消防機械・ポンプ	10	10	
実科教育 (356H)	訓練礼式	通常点検ほか	50	50
	消防活動訓練	消防活動訓練	72	82
		航空消防防災体制	3	
	救助訓練	救助訓練	28	45
		結索訓練	12	
	機器取扱訓練	空気呼吸器訓練等	54	55
	消防活動応用訓練	中高層建物火災、車両火災訓練等	82	85
体 育	サーキットトレーニング、持久走、強歩訓練等	55	55	
そ の 他 (158H)	実務研修	各消防本部における実務研修	35	35
	選択研修	危険物乙4、設備士乙6資格取得	12	40
		修了式実技訓練	18	
		操法大会、救助技術訓練大会等	26	
	行事その他	山岳訓練	14	50
		視察研修等	37	
入校式、修了式等		16		
特 別 教 育 (12H)	無線通信科	第二級陸上特殊無線技士資格取得	12	—
合 計			803	800

(R5年度 第73期 115日間 803時間)

## (2) 専科教育

## ア 特殊災害科 (第8期)

令和6年12月2日～12月10日 (7日間)

教 科 目	実 施 項 目	計 画 数 時 間	基 準 数 時 間
講話	職責と心構え	—	1
特殊災害の概論		2	2
危険性物質等に係る基礎知識及び関係法令	危険性物質等の基礎知識	15	15
	関係法令		
特殊災害に対する消防活動要領	危険性物質災害における活動要領	16	16
	特殊な空間・環境における活動要領		
特殊災害における安全管理	危険性物質災害における安全管理	5	5
	特殊な空間・環境における安全管理		
	テロ災害における安全管理		
図上訓練	図上訓練の企画立案	9	7
	図上訓練		
	検証		
効果測定		1	2
行事その他	入校式、修了式等	1	1
	合 計	49	49

(R4年度 7日間 49時間)

## イ 予防査察科 (第10期)

令和6年10月 2日～10月16日 (10日間)

教 科 目	実 施 項 目	計 画 数 時 間	基 準 数 時 間
講 話	職責と心構え	1	1
予防査察行政の現状と課題		4	1
消防同意	建築基準法	6	6
	建築同意事務		
査 察	消火設備の関係法令及び技術基準	27	24
	警報設備の関係法令及び技術基準		
	避難設備の関係法令及び技術基準		
	防火管理制度		
	火災予防条例		
危険物規制	高圧ガス保安	3	7
	液化石油ガス保安		
違反処理	違反処理の概要、手続等	12	14
	違反処理マニュアル		
	危険物取扱者及び消防設備士に対する行政措置		
消防広報	広報の概念、文書実務	3	0

(次ページに続く)

教 科 目	実 施 項 目	計 時 間 画 数	基 準 時 間 数
査察・違反処理実習	施設研修	4	8
事例研究	実務研究課題討議	6	6
効果測定		1	2
行事その他	訓練礼式、入校式、修了式等	3	1
合 計		70	70

(R3年度 10日間 70時間)

ウ 危険物科 (第26期)

令和6年11月25日～11月29日 (5日間)

教 科 目	実 施 項 目	計 時 間 画 数	基 準 時 間 数
講 話	職責と心構え	—	1
危険物行政の現状と課題	危険物行政の現状と課題	6	2
	消防関係法令の改正内容		
危険物化学	総論・各危険物の概要	4	5
	指定可燃物の貯蔵・取扱い		
	消防活動阻害物質		
危険物規制	危険物施設の規制	18	21
	危険物施設の位置・構造・設備の基準		
	危険物の貯蔵・取扱い・運搬・移送の基準		
	許認可事務		
	少量危険物等の規制		
	違反処理		
事例研究	実務研究課題討議	4	4
効果測定		1	1
行事その他	入校式、修了式等	2	1
合 計		35	35

(R4年度 5日間 35時間)

教 科 目	実 施 項 目	計 時 間 数	基 準 時 間 数
講話	職責と心構え	—	1
安全管理	概 要	21	21
	救助活動における安全管理		
	救助訓練における安全管理		
	危険予知訓練		
災害救助対策	概 要	23	23
	緊急消防援助隊		
	救助対策と活動事例		
救 急	外傷処置	5	5
	多数傷病者発生時の処置		
救助器具取扱訓練	主要な救助器具の取扱い (都市型ロープ含む。)	21	21
救助訓練	高所からの救助	30	30
	低所からの救助		
	火災時における救助		
	交通事故における救助		
	地震時における救助		
	ロープ・都市型レスキュー		
	その他事故における救助		
	救急救助		
	航空救助		
総合訓練	想定訓練	31	30
健康管理	体力管理	3	3
効果測定	学科考査	1	5
	実技考査	4	
行事その他	入校式、修了式等	1	1
合 計		140	140

(R4年度 20日間 140時間)

教 科 目	実 施 項 目	計 画 数 時 間	基 準 数 時 間
救急業務及び救急医学の 基礎	救急業務の総論及び医学概論	37	50
	解剖・生理		
	社会保障・社会福祉		
	救急実務及び関係法規		
	法医学		
応急処置の総論	観察	62	73
	検査		
	心電図		
	応急処置総論		
	応急処置各論		
	救急医療・災害医療		
病態別応急処置	心肺停止	70	67
	ショック・循環不全		
	意識障害		
	出血		
	一般外傷		
	頭部、頸椎（頸髄）損傷		
	熱傷・電撃傷		
	中毒		
	溺水		
	異物・呼吸障害、主な疾患		
特殊病態別応急処置	小児、新生児	20	25
	高齢者		
	産婦人科、周産期		
	精神障害		
	その他の創傷の処置等		
実習及び行事	実習	50	35
	行事その他	13	
合 計		252	250

(R5年度 36日間 252時間)

## (3) 幹部教育

中級幹部科 (第21期)

令和7年1月 7日～1月16日 (7日間)

教 科 目	実 施 項 目	計 時 間 数	基 準 数
講話	消防倫理	2	2
	職責と心構え		
訓練礼式	点検・礼式	1	1
消防時事	消防行政の現状と課題	4	4
消防財政	国と地方の関係	2	2
	財政の仕組み		
人事業務管理	組織と監督	10	10
	人権		
	民事・民事訴訟法		
	情報公開と個人情報保護		
	健康管理指導等		
	惨事ストレス対策等		
安全管理	公務災害	4	4
	安全対策		
現場指揮	災害現場の指揮	8	8
	現場指揮要領		
事例研究	実務研究課題討議	16	15
	グループ討議		
行事その他	入校式、修了式等	2	3
合 計		49	49

(R49年度 7日間 49時間)

## (4) 特別教育

ア 無線通信科 (第47期)

令和6年 6月20日～ 6月21日 (2日間)

教 科 目	実 施 項 目	計 時 間 数	基 準 数
法規	電波法	5	/
無線工学	無線電話取扱法	5	
その他	修了試験等	2	
合 計		12	

(R5年度 2日間 12時間)

イ 救急救命士生涯教育講習（第38期）

令和6年12月12日～12月18日（5日間）

教 科 目	実 施 項 目	計 画 数 時 間 数	基 準 数 時 間 数
実科訓練	静脈路確保研修	2.5	
	6H6Tシナリオ想定訓練	8	
	救急車同乗実習（自己所属本部以外で実施）	7	
	産科・周産期シナリオ訓練等（金沢医科大学 クリニカル・シミュレーション・センターにおいて実施）	7	
	多数傷病者対応訓練	4	
座学	救急統計学（データ活用）	1	
	危機管理体制（ヒヤリハット事故事例検討）	2	
	救急隊長の責務、リーダーシップ論	3	
行事その他	入校式、修了式等	0.5	
合 計		35	

（R5年度 5日間 35時間）

ウ 兼任救急隊員教育講習（第8期）

令和6年12月18日～12月20日（3日間）

教 科 目	実 施 項 目	計 画 数 時 間 数	基 準 数 時 間 数
実科訓練	多数傷病者対応訓練	4	
	CPA基礎訓練（胸骨圧迫等）	4	
	シナリオ想定訓練	3.5	
座学	救急隊長の責務、リーダーシップ論	3	
	石川県救急活動プロトコールについて	3	
	接遇・コミュニケーションスキル（情報収集要領）	3	
行事その他	入校式、修了式	0.5	
合 計		21	

（R5年度 3日間 21時間）

エ 通信指令員技術向上講習（第7期）

令和6年5月15日～ 5月16日（2日間）

教 科 目	実 施 項 目	計 時 間 数	基 準 時 間 数
通信指令員の役割	火災・救助などの聴取方法	2. 5	/
緊急度・重症度の識別	コールトリアージ要領	2	
解剖・生理	心停止に至る病態、その他の口頭指導対象病態、 死戦期呼吸	2	
ミニテスト		1	
口頭指導要領	口頭指導プロトコル解説	2	
シミュレーション総合教育	シミュレーション訓練、検討会、総括	3. 5	
行事その他	入校式、修了式等	1	
合 計		1 4	

（R5年度 2日間 14時間）

オ 指導救命士養成講習（第3期）

令和6年 9月30日～10月21日（15日間）

教 科 目	実 施 項 目	計 時 間 数	基 準 時 間 数
医学と教育	救急隊員のための医学概論	3	/
消防行政	救急業務と関係法令	2	
救急実務	消防組織とメディカルコントロール	2	
	救急隊長要務	2	
救急業務の研究	救急業務と統計学	2	
現場活動総論	救急活動技術	2	
救急活動各論	基本手法の確認	3	
	安全管理・観察・処置	6	
	接遇要領	2	
	救急現場学（経験的知識・技能・対応）の構築	9	
教育概論	成人教育法	6	
教育技法	評価技法	3	
	コミュニケーション技法	2	
	プレゼンテーション技法	3	
	事例提示技法	3	
救急救命士の再教育	症例検討会の計画と運営	2	
	対象者の習熟度に合わせた病院実習カリキュラムの計画	2	
	実践技能コースの計画と連携	5	
	集中講義の計画と連携	5	
救急活動事後検証	救急活動事後検証のあり方（検証結果とフィードバック）	5	
総合評価	総合シミュレーション	1 0	
総合確認	効果測定・追加講習	2 4	
行事その他	入校式、修了式等	2	
合 計		1 0 5	

（R元年度 15日間 105時間）

- カ ヘリコプター搭乗職員講習
- キ 消防大学校ゼミ
- ク 災害事例等講習

} 教科目・時間数は、別途計画による。

2 消防団員に対する教育訓練

(1) 専科教育

警防科（第36期）

令和6年10月5日～10月6日（2日間）

教科目	実施項目	計画数 時間数	基準数 時間数
講話	職責と心構え	—	1
訓練礼式	訓練礼式訓練	1	—
火災防ぎよ	放水訓練等	5	4
防災	災害対策、現場活動要領	2	2
安全管理	危険予知訓練	2	2
救急	応急手当	3	—
事例研究	実務研究課題討議	—	2
行事その他	入校式、修了式等	1	1
合計		14	12

(R5年度 2日間 14時間)

(2) 幹部教育

ア 初級幹部科（第11期）

令和6年10月19日～10月20日（2日間）

教科目	実施項目	計画数 時間数	基準数 時間数
講話	職責と心構え	1	1
訓練礼式	訓練礼式指導要領	1	1
現場指揮	現場指揮要領、火災想定訓練、放水訓練	3	3
防災	（公財）日本防災協会の防災講座	2	2
	災害対策、現場活動要領	2	
防災指導要領	応急手当	2	2
安全管理	危険予知	2	2
行事その他	入校式、修了式等	1	1
合計		14	12

(R4年度 2日間 14時間)

## イ 指揮幹部科現場指揮課程（第9期）

令和6年11月 2日～11月 3日（2日間）

教 科 目	実 施 項 目	計 画 数 時 間	基 準 数 時 間
講話・現場指揮・安全管理	現場指揮者としての職責と心構え	2	1
	現場指揮要領、危険予知		
火災防ぎょ訓練	大規模地震発生時における指揮要領、延焼拡大防止措置	3	2
水災活動訓練	風水害時の救助活動、指揮要領	—	2
救助・救命訓練	倒壊家屋等からの救助救命と指揮要領	3	4
避難誘導訓練	大規模地震発生に伴う津波災害時等の避難誘導・避難広報	2	2
災害情報収集・伝達訓練	他機関と連携した捜索活動、情報収集・伝達等の情報共有	1	1
	検索救助活動における活動標示の活用		
地域防災指導訓練	初期消火、応急手当及び簡易な救助の指導方法	2	1
行事その他	入校式、修了式等	1	1
合 計		14	14

(R4年度 2日間 14時間)

## (3) 特別教育

ア ドローン操作訓練

イ 女性消防団員専門知識向上セミナー

} 別途計画による。

## 3 一般県民に対する教育訓練

別途計画による。

## (参 考)

## 1 令和5年度 消防学校教育訓練実績

教育訓練種類			教育期間	教育日数・時間		修了者数 (計画教育人数)	聴講者 数(延べ)
				実日数	時間数		
消 防 職 員	初任	第73期	5年4月6日(木)～9月21日(木)	115	803	61(62)名	-名
	専科教育	警防科	5年10月23日(月)～11月6日(月)	10	70	26(26)	15
		火災調査科	5年11月27日(月)～12月8日(金)	10	70	24(24)	184
		救急科	6年1月30日(火)～3月22日(金)	36	252	34(46)	-
	幹部教育	初級幹部科	5年11月6日(月)～11月17日(金)	10	70	17(24)	-
	特 別 教 育	無線通信科	5年6月15日(木)、16日(金)	2	12	71(62)	-
		救急救命士生涯教育講習	5年12月7日(木)～12月13日(水)	5	35	23(27)	-
		兼任救急隊員教育講習	5年12月13日(水)～12月15日(金)	3	21	14(13)	-
		通信指令員技術向上講習	5年5月17日(水)、18日(木)	2	14	15(19)	-
		水難救助科	5年9月25日(月)～10月6日(金)	10	70	13(16)	-
ヘリコプター搭乗職員講習		6年3月4日(月)～3月22日(金)	14	95	3(3)	-	
消防大学校ゼミ		6年3月8日(金)	1	5	100(100)	-	
消 防 団 員	警防科	5年10月14日(土)、15日(日)	2	14	29(30)	-	
	指揮幹部科分団指揮課程	5年11月28日(土)、29日(日)	2	10	28(30)	-	
	女性消防団員専門知識向上セミナー	5年5月28日(日)	1	5	14(30)	-	
	ドローン操作訓練	5年5月14日(日)	1	7	21(20)	-	
一 般	県民教育等	随時	1	-	256(-)	-	
計				-	-	749(532)	199

注：初任教育第70期の803時間には、期間外に各消防本部（局）が行った実務研修（35時間）を含む。

## 2 消防学校の施設等の概況

### (1) 敷地面積及び建物の構造、面積

(単位：㎡)

敷地面積		33,192.69			
建物の名称	構造	規模	建築面積	延面積	摘要
管理棟	鉄筋コンクリート	2階建	1,211.95	2,050.35	
寄宿舍棟	鉄筋コンクリート	2階建	538.34	1,058.99	
屋内訓練場	鉄骨造	3階建	1,299.20	1,900.39	
訓練塔	鉄筋コンクリート	地下1階付 8階建	128.19	388.69	高さ 28.6m
補助訓練塔	鉄骨造	平家建	36.00	36.00	高さ 17m
車庫	鉄骨造	平家建	345.01	345.01	
防災資機材倉庫	鉄骨造	平家建	30.66	30.66	
合計			3,589.35	5,810.09	

### (2) 管理棟・寄宿舍棟の使用区分別面積

(単位：㎡)

設置の状況		単独					
使用区分	延面積	使用区分の内訳					
		室名	室数	面積	室名	室数	面積
管理棟	2,050.35	校長室	1	28.80	普通教室	1	91.48
		職員室	1	90.09	視聴覚教室	1	116.77
		印刷室	1	15.04	救急実技室	1	102.45
		宿直室	1	17.18	講堂	1	237.83
		会議室	1	59.76	リネン室	1	20.28
		講師控室	1	32.80	便所	2	49.73
		展示ホール	1	252.26	廊下その他		607.18
		ボイラー室	1	18.09			
		機械室	1	82.45			
		電気室	1	41.56			
		食堂	1	116.62			
		厨房	1	69.98			
寄宿舍棟	1,058.99	寮室	17	448.08	倉庫	2	46.23
		宿直室	1	30.95	洗面所・便所	2	103.19
		浴室	1	56.30	廊下その他		315.29
		娯楽室	1	58.95			

### (3) その他の施設

種別	規模	施設数	摘要
屋外訓練場	5,300㎡	1	アスファルト舗装
グラウンド	9,500㎡	1	
ヘリポート	625㎡	1	25m×25m

令和6年度消防学校教育訓練計画

令和6年4月発行

石川県消防学校

〒920-0209 金沢市東蚊爪町2丁目5番

電話 (076) 237-1800

FAX (076) 237-1812

E-mail [fire-sh@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:fire-sh@pref.ishikawa.lg.jp)